

日本赤十字

TAKATSUKI RED CROSS HOSPITAL

NO.
87
2013
MARCH

www.takatsuki.jrc.or.jp

**当院助産師が
日本赤十字社の国際医療要員として
フィリピン共和国で活動中です
(4面に特集記事)**



院長挨拶



平素より赤十字事業並びに高槻赤十字病院に対し多大なるご支援ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、山中教授がiPS細胞の研究でノーベル医学・生理学賞を受賞されました。再生医学・医療の発展を通じて難病やがん治療の分野において画期的な変化を期待させる大変喜ばしいニュースでした。日々進歩している医学・医療の成果を迅速に取り入れ質の高い医療を安全に実践

することを今年も病院の目標に掲げて行きたいと思っております。同時に、地域の医療・介護施設等と緊密に連携し地域完結型医療を実践します。そのためにも種々の課題の解決に努め、地域の人々に誇りにしてもらえ病院をめざしていきたいと思っております。

今後とも倍旧のご支援を切にお願い申し上げます。

2013年3月

院長 田 寫政 郎

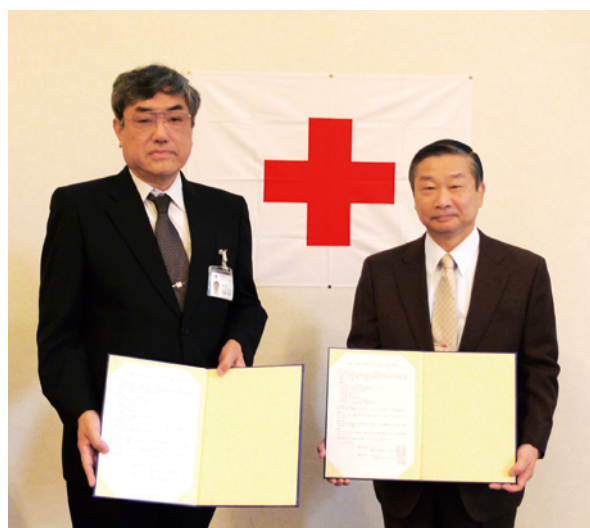
大阪薬科大学と学術の交流・連携を図る

昨年11月2日(金)に大阪薬科大学と学術交流に関する相互協定書の締結を行いました。

従来から大阪薬科大学との間で、講師の派遣や実習生の受け入れなどの連携を図っているところですが、これを契機に、教育や研究分野におけるより一層の進展を目指すこととしました。

今回の協定では、新たに診療に関する医療技術の相互支援、職員の交流、社会貢献及び学術会議の共同開催を行うことなども盛り込まれています。

当院の田寫院長は、「今後も教育や研究活動、医療の面においてさらに交流・連携を図っていきたい」と結びました。



田寫院長(左)と藤田大阪薬科大学学長(右)

昇任の挨拶



副院長 玉田 尚

このたび平成24年11月1日付にて、高槻赤十字病院副院長に昇任しました。平成2年4月に消化器内科医として本院に着任以来、約23年がたとうとしています。着任当時ようやく治療の端緒が見つかったC型慢性肝炎も、患者さまに対し国からの医療費の補助が得られる時代となり、薬剤の効果も格段の進歩が認められます。本院は大阪府肝炎専門病院となり、小生も厚生労働省の「慢性肝炎等の病態解明…」の班員となり全国の赤十字病院の肝疾患専門医の先生方と研究を行っています。思い返せば、着任時には病院の周りにはスーパーや高層マンションはな

く、航空会社のグランドがあったり、緑の多い丘陵地帯のままで本院が設立された結核専門病院の名残がありました。その後本院は、時代のニーズに対応し結核病棟を廃止し、癌治療が求められる時代にその方面の治療に特化するとともに、時代に先んじて緩和ケア病棟を開設し注目されました。更に新手術棟の建設、リニアックの導入と時代の要請に応じて、患者さま中心の医療を継続してまいりました。今後もより一層地域に密着した医療を行い、患者の皆様に愛され、信頼される病院を目指し、副院長として田嶋院長を支えて地域医療に貢献したく思います。



消化器科部長 神田 直樹

2012年11月より消化器科部長に昇任いたしました神田です。

1995年に京都大学医学部を卒業後、消化器内科の臨床・研究にたずさわり、京都大学大学院にて学位を取得、2005年より当院に勤務し消化器領域の先進的な医療に取り組んでまいりました。

昨年開設した消化器内視鏡センターでは、年間4800件の内視鏡検査、年間500件の早期癌治療・胆道処置などの治療内視鏡を行い、肝疾患に対しても、インターフェロン治療、肝臓癌のラジオ波凝固治療・TAEなどを積極的に施行しております。内視鏡技術の急速な進歩により、早期の食道・胃・大腸癌は、粘膜・粘膜下層を内腔から剥がし取ることで、臓器を温存したまま癌を根治的に内視鏡切除することができるようになりました。我々は、

ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)を中心としたこれらの技術に熟練しており、質の高い治療が提供できる体制となっております。これらの治療で治療するためには、早期癌の段階で発見することが必要であり、当院では内視鏡検査を心掛けておりますし、患者さまにも、症状があったり、便潜血検査などで要検査になった際には、必ず検査を受けるようお勧めしております。

また、消化器領域においても抗がん剤治療が著しく進歩していますが、この領域においても、専門的な治療を行っています。

今後とも、基幹病院にふさわしい質の高い医療を提供していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

日本赤十字社の国際医療要員として フィリピンで保健医療支援活動を行っています。

助産師 原田 香織

2012年10月から、フィリピンのキリノ州(首都マニラから北東に375km離れた山岳地帯)で実施している保健医療支援事業のために、日本赤十字社の駐在員として派遣され活動しています。赴任してから早くも4か月が過ぎ、最初は、言葉や文化などの違いに戸惑うことがありましたが、今は、駐在員としての役割を把握し、本事業に携わっています。

① フィリピン(事業地キリノ州)の保健医療分野での課題について

事業を実施しているキリノ州では、急性呼吸器疾患、高血圧、尿路感染症、皮膚疾患、下痢、デング熱、マラリアなどの疾患に罹患する人が非常に多く、命を落とす人も少なくありません。これらの予防のために、地域住民に対する保健衛生についての健康教育や衛生設備の整備が強く求められています。

② 事業内容について

本事業では、同州アグリパイ郡の中で、罹患率の高い9つの村を対象にしています。住民の多くは、病気の予防や対処法について十分な知識を持っていません。そこで、住民の保健衛生に対する意識を高め、病気に関する知識を持ってもらうために、この地域に81人の地域保健ボランティアを育成しました。(写真①) この地域保健ボランティアは住民へ健康教育を行い、保健衛生の知識を普及する役割を担っています。また、住民の衛生環境を改善するために、安全な水を提供するためのポンプ式の井戸といった給水システム、そしてトイレや手洗い場の衛生設備の整備を行い、同時にBAWASAと呼ばれる村の水衛生委員会のボランティアを35人育成しました。BAWASAは、この給水システムの機能を維持するために、設備の管理や修理をする役割を担っています。更に、キリノ州支部スタッフ、地域保健ボランティア、BAWASAが、それぞれ問題意識を持ち持続的に活動していくために、定期的なミーティングや、技能定着のための研修を実施しています。



③ 日赤の駐在員としての業務

キリノ州支部には、本事業の推進にあたる事業担当者がいます。私の主な活動は、この事業担当者とともに事業対象の村に行き、地域保健ボランティア(写真②③)やBAWASA(写真④)の活動、学校での衛生教育の実施状況(写真⑤⑥)や児童に配布された衛生キット(写真⑦)の使用状況、衛生設備などの確認を行っています。また、年間計画に沿って事業がスムーズに実施されるようにフィリピン赤十字社と日本赤十字社との調整にあたり、時には、現地の状況を考察した上でフィリピン赤十字社に対し提言する役割も担っています。



④ 現地で学び得たこと



フィリピンに滞在し、日本では経験できないことを幾つも体験しましたが、生活習慣やものの考え方の違いを痛感する機会は多かったと思います。

ここキリノ州支部の敷地には、時々、野生や放し飼いの鶏や羊などが現れます。ある日、プロジェクトドライバーが羊に石を投げて敷地から追い払っているのを見て、私は違和感を抱いたのですが、ドライバーによると、敷地内にある野草(カンモテタプス: 写真⑧)などの植物は、人々の食材になるものだから、羊に食べられたら困るとのことでした。私は、この時、この地域の文化や生活をよく理解してなかったことを強く反省しました。

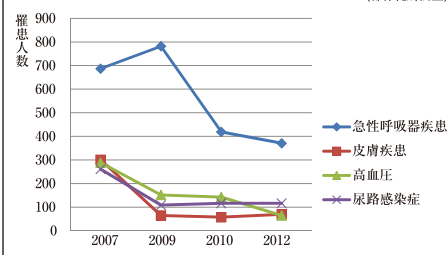
フィリピンの人々には、彼らなりに生きるための価値観があり、それに根ざした生活があります。このことを通して、現地の文化や価値観を理解し、現地の考え方や暮らしを尊重した上で行動することが大切だと実感しました。

⑤ 地域と住民の自発的活動に向けて

この地域の主な疾患である急性呼吸器疾患、高血圧、尿路感染症、皮膚疾患の患者数は、事業が開始して以来減少しています(グラフ①)。地域保健ボランティアの住民に対する健康教育や、安全な水を提供するために努力しているBAWASAの活動は、この地域の住民が、かけがえのない健康について考え、疾患を予防していくために大きな役割を果たしていると思います。赤十字は、この地域保健ボランティアやBAWASAの知識や技能を定着させ、彼ら自身で活動できる体制を支えています。そうした支援だけでなく、州、村、学校など地域すべてが力をあわせ、自発的に取り組むことこそ、最も重要なことだと感じています。私の派遣期間はあと2ヶ月ほどですが、少しでもこの事業に貢献できるように、これからも頑張っていきます。

① 事業地アグリパイ郡の罹患疾患数の推移

(郡保健所調査)



当院消化器科・消化器内視鏡センターは日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の認定指導施設で、2012 年は下記の通りの検査・治療数を施行しています。2012 年 2 月に高度な検査・治療に対応するために開設した消化器内視鏡センターでは、指導医 2 名をはじめ医師 6 名、内視鏡技師資格を有する看護師 3 名を有し、年間約 4800 件の内視鏡検査を行い、早期癌治療・胆道系処置・止血処置などの治療内視鏡も年間 500 件を越えています。消化管の内視鏡治療では、早期胃癌の ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)は毎年約 50 例を施行し北摂屈指の症例数となっています。大腸腫瘍に対する ESD も、先進医療の時から施設認可を取得し、従来の方法では切除できなかった大きな早期大腸癌も低侵襲に内視鏡的切除ができるようになっていきます。さらに、外科と共同し胃粘膜下腫瘍の低侵襲治療である LECS(Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery= 腹腔鏡・内視鏡合同手術)も開始するなど、最先端の医療に取り組んでいます。

肝疾患の症例も多く、インターフェロン治療、肝臓癌のラジオ波凝固治療・TAE などを積極的に施行しております。

当院では消化管出血や胆道結石などの救急疾患に迅速に対応するだけでなく、早期胃癌・大腸癌の内視鏡治療など、病院によっては数カ月待ちとなることもある疾患に対しても、2-3 週間以内には処置ができる体制をとっています。

今後とも、基幹病院として質の高い医療を提供していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

<2012 年内視鏡検査・治療数>

上部消化管内視鏡検査	3239
下部消化管内視鏡検査	1612
胃内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	49
大腸内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	26
大腸ポリープ切除 (polypectomy/EMR)	309
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)/ 内視鏡的総胆管結石除去 / 内視鏡的胆管ドレナージ・ステント留置	96

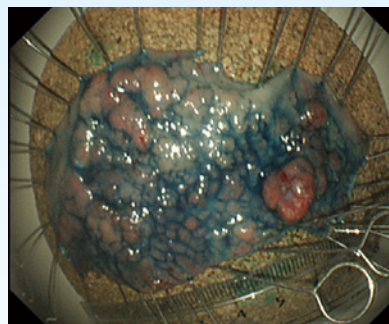
<大腸 ESD (肛門直上病変)>



(肛門直上早期直腸癌)



(切除後)



(切除標本)

地域住民のみなさまへ

地域連携推進課長 山岡 紀代美

テレビなどいろいろなニュースで今後の医療現場がどう変わっていくのか？もし病気になった時、病気が治った時、その先はどうしたらいいのだろうか？と心配になることがあると思います。私たち医療現場スタッフはどのような支援があれば地域住民のみなさまにあった医療サービスを提供できるのか、日々考えています。まずは、地域の先生方と病院との間で 患者さまにどのような治療方法を選択すればいいのか？治療が終わった後、地域に戻った時にこれまでと同じような生活をしていくには どうしたらよいか？など互いに患者さまの情報交換などの連携体勢をとっています。私たち地域医療連携室スタッフは、在宅で安心して診てもらえる「かかりつけ医」の紹介、専門病院の受診が不安なくできるように予約調整など、支援活動に必要な情報を集めています。これからもこのようなご相談などがあれば私たち「地域医療連携室」スタッフにお声をかけてください。

認定看護師紹介

がん化学療法看護認定看護師

成相 朋子



がん化学療法看護認定看護師は、抗がん剤治療を安全に続けて頂けるように患者さまやご家族を支援する役割を担っています。抗がん剤治療は副作用との戦いです。その多くが外来で行なわれるため、自宅で行うことが難しいのかと患者さまやご家族は心配が尽きないと思います。そのため外来治療開始前より関わりを持ち、日々の治療時には、副作用の程度聞き取り、症状緩和のための薬剤の使用方法や予防対策を含めた生活の調整方法の説明を行い、患者さまご自身で対処ができるように支援していきます。がん治療に伴う様々な悩みに応え、一人一人の治療状況に合わせて社会生活が続けられるように、担当看護スタッフと協力し、がん関連の認定看護師や医師とも連携を図り、チームで支援できるように心掛けています。

院内キャンドルサービス

看護副部長

吉田 篤美

例年行っております院内キャンドルサービスは、患者さまにひと時の癒しと穏やかな時間が来ることを願い、今年度も12月21日午後6時から実施いたしました。外部よりの一般参加ボランティアを迎え病院職員ボランティアと合わせ総勢112名、各病棟を3つのグループに分かれ、蝋燭を手に聖歌を歌いながら巡回いたしました。病棟の電灯を落とし蝋燭の灯が浮かび上がり、厳かな雰囲気をもし出すことができました。

患者さまからは、「きれいな癒される」「気分転換になる」「などの声が聞かれ、聖歌隊に初めて参加した職員も感激いたしました。一般参加ボランティアの方々のご理解とご協力があつてこそと、大変感謝いたしております。紙面を借りてお礼申し上げます。



航空機事故対策 総合訓練に参加して

4病棟看護師 吉川 千晶

11月22日大阪国際空港において医療機関・消防機関・航空隊・警察等参加のもと行われた合同訓練に参加させて頂きました。滑走中のエンジンからの爆発・炎上という設定での訓練でしたが、私達のチームは、2次トリアージ地区において中等症者の救護所を担当しました。4施設での合同チームで統括リーダーの指揮の下、各施設に分かれ状態観察者と記録者の2人ペアで救護に当たりました。傷病者の情報はトリアージタグのみでコミュニケーションを取りながら受傷時の状況把握と状態観察処置を行いました。担当した傷病者のうち1名が状態悪化し重症救護所へ搬送になるという状況に遭遇しました。突然の事故・災害など予期せぬ状況下に置いては傷病者の不安・混乱が予想され、いかに不安を軽減し迅速に状態把握に努める事が重要であることを学びました。実際の事故・災害においては次々と傷病者も運ばれ救護所自体が混雑した状況になる事も予想され、リーダーとスタッフ間、ペア間においては綿密なコミュニケーションを図る事が重要であると感じました。また、傷病者は事故や災害という突然の状況に戸惑い・精神的動揺も大きい事が予想されます。このような傷病者に対して身体的看護は勿論ですが精神的看護も重要であると感じました。

参加以前には実際のイメージがわからず戸惑いと緊張もありましたが大規模な訓練において現場の臨場感を体験する事が出来、貴重な経験をさせて頂きました。今回の経験を生かし今後の救護活動に役立てたいと思います。



平成24年度 病理解剖者合同追悼式

総務課長 檜原 卓也

平成24年12月4日、平成24年度病理解剖者合同追悼式がしめやかに執り行われました。

当日は、開式の辞のあと、ご献体いただいた13名の方々のご冥福を祈り黙祷が捧げられました。

続いて院長による追悼の言葉、バイオリンによる献奏の儀の後、ご遺族、病院職員による献花が捧げられました。

臨床医学に携わるすべての医療従事者にとって、診断の確信や治療効果などを検証する病理解剖の果たす役割は極めて重要です。私どもは、ご遺体から学ばせていただいたことを日々の診療に活かすとともに、同僚後輩に伝え、医学の発展に役立てていかなければならないと思いを新たにいたしました。

13名の方々は、ご遺族の方々の深いご理解、ご協力のもとに医学・医療の向上・発展のために病理解剖をご許可くださいました。その崇高な御心に対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。



13柱の御霊が永久に安らかに眠られることを心よりお祈りいたします。

おすすめレシピ

～2013年1月
糖尿病試食会より～

砂糖不使用の寿司

メニュー

- ・巻き寿司 (砂糖不使用)
- ・鯖の塩焼き
- ・ほうれん草浸し
- ・みかん



材料 (1人分)

<巻き寿司 砂糖不使用>

ごはん	150g
マービ-顆粒	4g
塩	0.8g
米酢	8cc
おから	30g
米酢	適量
大葉	1g
ゆず(皮)	2g
焼き海苔	4g
干し椎茸	2g
干びょう(乾)	5g
マービ-顆粒	2g
濃口醤油	2g
みつば	8g
人参	20g
キュウリ	20g

<鯖の塩焼き>

鯖	60g
塩	0.5g
大根	50g

<ほうれん草浸し>

ほうれん草	70g
花かつお	2g
濃口醤油	2g

<果物>

みかん	1個
-----	----

エネルギー 528kcal	炭水化物 92.3g	たんぱく質 24.8g
脂質 10.8g	塩分 2.2g	食物繊維 12.4g

作り方 巻き寿司

< 酢飯の作り方 >

- ① 分量の米酢、塩、マービ-顆粒で合わせ酢を作る。
- ② おからをから煎りしややしっとりする程度に米酢をまぶし冷ましておく。
- ③ 大葉はせん切り、ゆずの皮はあらみじん切りにする。
- ④ ややかために炊いたご飯に①②③を混ぜ合わせる。

< 具の作り方 >

- ① 干し椎茸は軽く水で洗い、ぬるま湯で戻す。戻し汁は煮汁に使う。
- ② 干びょうは水洗いし、塩を付けてもみ(早くやわらかくなる)、洗って塩を流し、茹でる。茹で汁は捨てる。(※塩洗いの塩は洗い流すため分量外)
- ③ ①と②を干し椎茸の戻し汁でやわらかくなるまで炊き、分量の調味料を加え味付けする。
- ④ みつばは下の部分をしばり、根を切りおとし茹でる。にんじんは寿司の長さに細く切り茹でる。キュウリも寿司の長さに細く切りそろえる。

一口メモ

<お寿司>

お寿司は寿司飯に砂糖と塩がたくさん含まれています。血糖の上昇を招きやすい献立です。安心して食べるためには一工夫が必要です。

※今回の献立の工夫点

- ① 砂糖を使わず低加糖・甘味料を使用
- ② 塩分控えめでも美味しく食べられるように、香味(ゆず、大葉)をすし飯に使用
- ③ 寿司飯におからを混ぜ食物繊維 Up
- ④ 副菜は汁物を避け、野菜の小鉢で減塩と食物繊維 Up

赤十字大会に参加して

放射線科 松下 あゆみ

私は、平成24年11月19日(月)にNHK大阪ホールにて行われた「平成24年度大阪府赤十字大会」にスタッフとして参加させて頂きました。

この大会は、事業資金のご協力を頂いた赤十字社員や寄付者、ボランティアとして活動に貢献して頂いた方に感謝の意を伝えることを目的としています。

当日は、日本赤十字社・近衛忠輝社長ご臨席の下、有功賞・表彰状・感謝状の授与・贈呈の他、東日本震災の活動報告、大阪赤十字看護専門学生による合唱、西川きよし氏による特別講演等が行われました。

今回このような大会に参加する機会を与えて頂き、改めて多くの方々によって赤十字が支えられているのだという事を実感し、赤十字の一員であることに強い誇りを感じました。



歴史回廊クリーン作戦“芥川宿”を清掃!

高槻市

秋季環境美化

推進デーに参加

社会課長 荻原直久

枯葉舞う晩秋の十一月十八日、高槻市主催で秋季環境美化推進デーが開催され、今回は、歴史回廊クリーン作戦として、「摂津峡」、「いましる大王の杜」、「城跡公園」、「芥川宿」、四ヶ所の歴史回廊に別れての美化清掃活動が実施されました。

当院からは、医療社会事業部長を初めとする5名が参加し、芥川宿（清福寺町芥川の河原まで）の約二キロ余りの美化活動に汗を流しました。



平成24年度

ボランティア交流会

社会係長 大内貞則



平成24年11月26日（月）当院3階講義室において「平成24年度高槻赤十字病院ボランティア交流会」が開催されました。高槻日赤技能奉仕団、緩和ケア病棟レイクサイドホームボランティア、大和なでしこ、さくら、ガーベラ

会、園芸ボランティア、災害ボランティアの7グループの内40名、当院からは田嶋院長を含む11名の職員が参加いたしました。毎年、ボランティアグループ間の親睦と意見交換を目的に開催されますが、今回の交流会は同じボランティアグループが固まらないよう座席をバラバラにし、その中に職員が入る事で、ボランティアと職員の意見交換が身近に出来るようになり、とても和やかな交流会になりました。「院長先生と初めてお話し出来ました」「病院の方がボランティアの事をどのように考えてくれているか聞けてとても良かったです」「他のボランティアの方と話が弾みました」等のご意見も聞かれ、ボランティアと共に歩んでいる高槻赤十字病院を感じることが出来た交流会となりました。

看護部ホームページをリニューアルいたしました。

総務課 佐橋 克哉



平成25年1月から「看護部ホームページ」をリニューアルいたしました。

近年、就職希望者の病院選びの基準として看護部サイトの情報を重視する傾向があり、当院も看護部サイトの充実を行いました。

「情報量の充実」はもちろん、知りたい情報がすぐに見つけられる「使いやすさ」も重視しており、閲覧者には快く見て頂けるものとなっております。

また、TOP ページは、当院の自然な雰囲気や温もりのある看護部を表現しようと動物キャラクターをイラスト風にし、色合いもピンク色を基調とするなど快く見て頂くための工夫も凝らしております。

看護部ホームページのURLは、<http://nurse.takatsuki-jrc.jp/> になりますので、皆さま是非一度ご覧ください。そして、これからも皆さまにより良い情報を提供できるように更新を行って参ります。



日本赤十字社 高槻赤十字病院

〒569-1096 大阪府高槻市阿武野 1-1-1
TEL 072-696-0571（代表）
URL <http://www.takatsuki-jrc.or.jp>
mail trc@takatsuki-jrc.or.jp
発行責任者 事務部長 神谷 尚孝

高槻赤十字病院の理念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

高槻赤十字病院の方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重し、患者さま中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さまを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さまのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字に課せられた使命を果たします。

モバイルサイト

携帯電話でQRコードを読み取ってアクセスしてください

病院情報は
こちらから！

